

KIDS SMILE LABO JOURNAL *January*

日常に散りばめられた、 子どもたちの表現

KIDS SMILE LABO で開催されている「LIFE is ART」という、子どもの写真とアートの作品展。今年は数年ぶりに園内での開催となり、実に温かみのある一日となりました。会場を彩るのは、この一年間の中で子どもたちが表現してきた、さまざまなモノやコトです。当園で大切にしているのは、上手い・下手という評価ではなく、表現に至るまでの過程や、その子がつ世界そのもの。それらは、まさに日常の瞬間の中に散りばめられています。一つひとつの作品がもつストーリーを、楽しそうに語る保育者の姿を見ていると、子どもの表現を受け止める大人の存在がいかに大切か、改めて気付かされます。それは、個々がつその子らしさの芽や表現を、摘み取ってしまわないために必要不可欠な存在なのだと感じます。

展示されていた幼児クラスの作品の中に、「もともとサッカーボール」というタイトルが付けられたものがありました。タイトルを知らずに見ると、「これは何を作ったのだろうか？」と感じる作品です。けれど、もちろん「何か」でなくてもいいのです。思うように手が動いた結果だったり、心地よさを感じ、満足するまでやり切った結果だったり。その形に至るまでの過程こそが、とても面白く、豊かで、何度も「なるほどね」と頷かされてきました。

一見すると「なんだろう？」と感じる表現の中には、目に見えている以上のストーリーがたくさん詰め込まれています。そのことを、ぜひこの機会に知っていただけたら嬉しいです。日頃から大切にしている表現という営み。それを凝縮した行事が「LIFE is ART」です。子どもたちは本当に無限の可能性をもっていて、その表現の豊かさを失うことなく、大きくなっていったほしいと願わずにはいられません。

〈もりもり〉の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。
5 歳と 2 歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。趣味は写真撮影で、愛用のカメラは Nikon Zf。
彼の生み出す、優しくて愛で溢れる世界はnoteにて随時更新！
子育てや保育への想いも語っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



photo by Takahiro Aoki / HIBINOSEKKEI

01

LIFE is ART を振り返って

園内での開催は 3 年ぶりとなりました。
今年も素敵に彩られましたよ。

02

わらべうたから始まる 友だちの輪

今年度から始まったわらべうたの時間
先生の紹介も掲載しています！

03

乳児クラストピック

1 月に入り、より友だちとの時間が
深まっている様子です。

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo



@kidssmilelabo



KIDS SMILE LABO



@KIDS_SMILE_LABO

Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

わらべうたから広がる育ちの輪

今年度5月から、新しく取り組み始めた「わらべうた」。
月に一度、外部講師の方をお招きし、子どもたちと一緒にわらべうたに親しむ時間を重ねています。
講師の方が用意される道具に興味津々の子どもたち。わらべうたの時間になると、講師の声や歌声に耳を澄まし、その世界へと引き込まれていきます。聞きなれない歌であっても、繰り返し歌う中で自然と覚え、日常の遊びの中でも口ずさむ姿が見られるようになりました。
わらべうたを通して、子どもたちは遊びの中で多くのことを経験しています。歌う中で声の大きさやリズムを感じ取り、じゃんけんでは順番や勝ち負けを知ります。仲間と手をつないだり、動きを合わせたりすることで、自然とふれあいや関わりが生まれます。また、縄や体を使った遊びの中では、バランスの取り方や体の動かし方、相手や場面に応じた力加減も身につけていきます。回数を数えながら繰り返し遊ぶことで、「数」への意識も育ち、楽しみながら学びへとつながっています。
その中の一つとして、子どもたちが特に楽しんでいるのが長縄です。初めはなかなか跳ぶことができませんでしたが、わらべうたに合わせてロープを渡ったり、くぐったり、ジャンプしたりと段階を踏んで挑戦してきました。失敗しても「もう一回やってみる」と何度も経験を重ね、今では300回を超えて跳べる子もいます。積み重ねることの大切さや、自分でできた喜びを味わう姿が見られています。
わらべうたの時間は、歌や遊びを通して心と体、そして友だちとのつながりを育む大切なひとときです。昔から伝わる遊びの中には、今の子どもたちの育ちにつながる多くの要素が詰まっています。
これからも、わらべうたの時間が日々の遊びや生活へとつながっていくよう、大切にしていきたいと思っています。

text by Satomi Hiramoto

乳児さんもわらべうたを楽しんでいますよ



Instructor Introduction

二階堂 恵子 先生 / けいたん

1975 年 国立音楽大学教育音楽学科卒業
日本コダーイ協会会員

1976 年ハンガリーの作曲家コダーイ・ゾルダーンが考案したコダーイ・メソッドに出会い、自国のわらべ歌から始める音楽教育に興味を持ち研究会員となる。「今を生きる

子ども達の音楽教育に何が必要か」「どうアプローチしていけば良いのか」を学ぶため、毎年夏に開催される日本コダーイ協会音楽セミナー全国大会に参加している。
音楽が特別なものでなく誰もが楽しめる物になるよう、歌を楽しく歌う子どもがもっと増えるよう願っている。
現在は幼稚園・保育園の園児・教諭にわらべ歌遊びの指導を行う。又、厚木わらべ歌研究会でわらべ歌遊びに興味を持つ教育関係者に向けて研修会を開催している。



Nobana

友だちと育むイメージと心

寒さに負けず戸外で元気いっぱい遊ぶのぼなさん。子どもたちの「イメージする力」がぐんぐん育っていることに驚かされる場面がたくさんあります。しっぽ取りゲームでは、以前は「取られないように逃げる」ことに夢中だった子どもたち。「これはチーターのしっぽ！だから速いんだよ」「ライオンのしっぽ！」今では自分のしっぽに物語をつけて楽しむ姿が見られます。保育者がしっぽをつける「タコ」になって逃げてほしい」とリクエスト。ニョロニョロ走り出すと、「じゃあカニになる！」とチョキチョキ手を動かしながら追いかけてくるなど、遊びはどんどん広がっていきます。

ある時には、ミニズのような木の棒を拾って「LABO」に連れて帰ると、友達と一緒に家を作ったり、家族を考えたり、ご飯を用意したりと、大切なお世話をしていました。子どもたちの豊かな発想力は、見ているこちらまでワクワクさせてくれます。友達と一緒に世界を広げる楽しさがある一方で、時にはぶつかることもあります。保育者としてどこまで見守り、どこで声をかけるか迷う場面もありますが、最近ののぼなさんは、自分たちで解決しようとする姿がよく見られます。おもちゃの取り合いにどうしたらいいかなと聞くと、「もう一個あっちにあったから持つてくる」と言ったり、友達同士のトラブルに気づくと「こうしたらいいんじゃない？」「おんなじの持つてきてあげるよ」と自然に声をかけたりする姿も増えてきました。相手の気持ちに気づく力や、自分たちで考えて行動する力が育っているのだと感じます。これからも子どもたちの「たのしい」があふれる時間を大切にしていきたいです。

Text by Terumi Sawaguchi



Soyokaze

お部屋がリニューアル！

そよかぜのお部屋では、12月末からコーナー保育を取り入れ、常設のキッチンコーナーと絵本コーナーを設けました。それに加え、子ども達の興味やその時々の姿に合わせて、ブロックコーナーやパズルなどを楽しめる机上コーナー、お絵描きコーナーなどを用意し、現在は3つのコーナーの中から、子ども自身が遊びたい場所を選んで過ごしています。それぞれの遊びの場で、やってみたいことを自分で選び、じっくり関わられるような環境を大切にしています。

新しく設けたキッチンコーナーを見た子ども達は、「わあ！新しい！！」「キッチンだ！」と目を輝かせていました。夏頃から親しんできたままごと遊びがさらに広がり、シンクでお皿や野菜を洗うなど、よりリアルなやりとりを楽しむ姿が見られるようになってきました。

絵本コーナーでは、クッションに座って自分で絵本を開いたり、「これ読んで。」と保育者に声を掛けたりと、それぞれのペースで絵本に親しむ様子が増えてきました。

自分で遊びを選ぶ経験を重ねる中で、子ども達が落ち着いて遊びに向かい、好きなことをじっくり楽しむ姿が見られるようになってきたと感じます。玩具を常設したことで、遊びに気持ちが向く場面もありましたが、「着替えたら遊ぼうね。」「起きたら遊ぼうね。」という声掛けを繰り返す中で、少しずつ約束を守りながら過ごせるようになってきています。

今後も、子どもたち一人一人の様子や成長に寄り添いながら、コーナー保育の内容を工夫していきたいと思っています。

Text by Riko Fujita



Komorebi

友だちと一緒に広がる世界

年末年始の休みが明け、話す言葉が増えたり、歩くスピードが速くなったりと、こもれびさん一人ひとりの成長をより強く感じるようになりました。これまでは保育者と一緒に遊んだり、一人でじっくり遊ぶ姿が多く見られていましたが、最近は友だちとの関わりが少しずつ増えてきています。

ぬいぐるみを持つてきた友だちの姿を見て真似をし、ぬいぐるみを抱えながら二人並んで座って足をジタバタさせてみたり、戸外では友だちの後を追いかけるなど、一緒に遊ぶ楽しさを味わっています。

面白いことを見つけると「一緒にやろうよ」と言わんばかりに顔を覗き込む姿も見られ、時には大人が思わず困ってしまうようないたずらを一緒に楽しむ姿もあります。

戸外へ向かう道中では、友だちと手を繋ぎ、顔を見合わせて嬉しそうに微笑む姿がとて可愛らしいです。途中で座り込んでしまうこともあります。子どもたちの歩きたいという気持ちを第一に考え、「一緒に歩くこと」「楽しく歩くこと」大事にしています。

心の成長もぐんと感じられるこの頃。お昼寝明けに友だちを優しく起こしたり、転んだ友だちを心配そうに見つめたり、思いやりの気持ちが芽生えています。時には気持ちがぶつかることもあります。が、これからも子どもたちの様々な気持ちを丁寧に見守っていきたいと思っています。

Text by Miyuki Miyasaka

